

5 - 1 東海地方の地殻変動

Crustal Deformations in the Tokai District

国土地理院

Geospatial Information Authority of Japan

[GNSS 上下 御前崎]

第 1 ～ 4 図は、掛川～御前崎間における電子基準点の GNSS 連続観測による比高変化である。

第 1 図は、電子基準点間の比高変化である。日々の座標値から計算した月平均値をプロットしており、最新のデータは従来の長期的な沈降傾向に沿っている。なお、2009 年 8 月 11 日に発生した駿河湾の地震に伴う御前崎 A 観測点の局所的な地盤変動の影響については、地震前後に電子基準点と周辺の水準点で行われていた水準測量の結果を用いて補正している。

第 2 ～ 3 図は、御前崎地域の GNSS 連続観測による比高変化時系列である。第 2 図に観測点の配置と、アンテナ交換等の保守の履歴を示す。

第 3 図の比高変化グラフは、左列が 1999 年 4 月以降の約 25 年間の長期、右列が最近約 2 年間の短期の時系列グラフである。(5) については、2009 年 8 月 11 日の駿河湾の地震に伴う御前崎 A 観測点の局所的な沈降量を水準測量の結果を用いて補正している。掛川 A 観測点に対して御前崎側の観測点が長期的な沈降の傾向にあることが見てとれる。

第 4 図に、各電子基準点の掛川 A 観測点に対する比高変化について、1 か月ごと及び 10 日ごとの平均値を示している。各図の右に各点の上下変動速度（マイナスは沈降）が記されている。特段の傾向の変化は見られない。

[GNSS 駿河湾]

第 5 ～ 6 図は、駿河湾とその周辺の GNSS 連続観測による基線長変化時系列である。第 5 図に基線図と、アンテナ交換等の保守の履歴を示す。

第 6 図の基線長変化グラフは、左列が 2016 年 4 月以降の約 12 年間の長期、右列が最近約 2 年間の短期の時系列グラフである。傾向に特段の変化は見られない。

[東海地方の地殻変動]

第 7 ～ 9 図は、白鳥観測点を固定局として示した、東海地方の地殻変動である。

第 7 ～ 8 図は、平成 23 年東北地方太平洋沖地震前の 2008 年 1 月～2011 年 1 月の期間の変動を定常変動と仮定し、それからの変動の差を非定常変動として示した図である。水平成分及び上下成分のそれぞれについて、最近の約 1 年間の図と 3 か月ごとの図を示す。最近 1 年間の図には、2022 年初頭から東海地方で見られている非定常的な地殻変動の影響で、渥美半島～浜名湖付近にかけて南東～東向きの変動が見られる。また、最近 3 か月の図では、浜名湖西部の観測点の変動ベクトルが東向きから南向きに変化している。

第 9 図は、東海地方の GNSS 連続観測点の非定常地殻変動の 3 成分時系列である。平成 23 年東北地方太平洋沖地震の余効変動の影響は小さくなってきている。(1) の田原観測点、(8) の湖西観測点等で 2022 年頃から非定常的な地殻変動が見られる。また、(5) の鳳来観測点、(6) の S 掛川観測点、(9) の浅羽観測点では、2024 年末頃から非定常な地殻変動が見られる。(7) の榛原観測点で 2016 年

6 月頃から上下成分に変化が見られていたが、2017 年 2 月 4 日に周辺樹木の伐採を行った後は元に戻っている。また、多くの観測点で南北成分に令和 6 年能登半島地震の影響が見られる。

[東海地域の非定常地殻変動（長期的ゆっくりすべり）]

第 10 ～ 15 図は、2022 年初頭から東海地域で見られている非定常的な地殻変動に関する資料である。非定常的な地殻変動を基に、時間依存インバージョンでプレート境界面上のすべり分布を推定した。固定局は三隅観測点（950388）である。気象庁のカタログを用いて短期的ゆっくりすべりによる変動を除去したほか、平成 23 年東北地方太平洋沖地震及び令和 6 年能登半島地震の粘性緩和による変動を補正している。それらの補正後、2020 年 1 月 1 日～2022 年 1 月 1 日の期間で推定した一次トレンド成分を除去している。すべりの推定では、すべり方向をプレートの沈み込み方向と平行な方向に拘束している。

第 10 図は、下段に示した 7 観測点の観測値と計算値を比較した時系列図である。2022 年初頭から南東向きの変動が見られる。計算値は観測値をよく説明できていることが分かる。

第 11 図左の図は、2022 年 1 月 1 日～2026 年 5 月 1 日の期間で推定されたすべり分布を示している。渥美半島付近にすべりが推定された。推定されたすべりの最大値は 19cm、モーメントマグニチュードは 6.6 と求まった。

第 11 図中央の図は、観測値と計算値の比較の水平変動ベクトル図である。計算値は観測値をよく説明できていることが分かる。

第 11 図右の図は、推定すべり分布図中の太い実線で囲まれた領域に位置するグリッドのすべりから求めたモーメントの時系列グラフである。2022 年初頭からモーメントの増大が見られる。

第 12 図は、今回の非定常すべりから推定された累積すべり分布及びモーメントの時系列を、過去にこの地域で発生した非定常すべりに基づく推定結果と比較した図である。

上段は累積すべり分布の比較及びモーメント計算範囲を示したものである。今回の非定常地殻変動に基づき推定された累積すべり分布は、2013 年に発生した非定常すべりの結果とおおむね一致しているが、さらに北東方向に広がっている。一方、2000 年に発生した非定常すべりに基づき推定された累積すべり分布では、すべり領域がさらに北東方向に広がっている。

下段はモーメントの時間変化である。2000 年に発生した非定常すべりにおいて推定されたモーメントが最も大きい。今回の非定常すべりに基づき推定されたモーメントは、2025 年に入ってから、前回の非定常すべりに基づき推定された値を上回った。

第 13 図は、各グリッドにおけるすべりの時間変化を示した図である。西側のグリッド（170, 171, 172 等）では 2022 年初頭からすべりが見られる。東側のグリッド（134, 135, 136 等）では 2025 年頃からすべりが増加している。2026 年頃から、さらに東側のグリッド（116, 117, 118, 98, 99 等）でも顕著なすべりが見られる。

第 14 ～ 15 図は推定されたすべり分布の 3 か月ごとの時間変化を表したものである。非定常すべりが開始した 2022 年から 2024 年にかけては、渥美半島周辺でのすべりが推定されている。2025 年に入ってすべりの中心は浜名湖周辺へ移動し、2025 年 10 月以降は主に浜名湖の東側にある。

[志摩半島周辺の非定常地殻変動（長期的ゆっくりすべり）]

第 16 ～ 18 図は、2024 年夏頃から志摩半島周辺地域で見られている非定常的な地殻変動に関する資料である。非定常的な地殻変動を基に、時間依存インバージョンでプレート境界面上のすべり

分布を推定した。固定局は三隅観測点 (950388) である。気象庁のカatalogを用いて短期的ゆっくりすべりによる変動を除去したほか、平成 23 年東北地方太平洋沖地震及び令和 6 年能登半島地震の粘性緩和による変動を補正している。それらの補正後、2020 年 7 月 1 日～2022 年 7 月 1 日の期間で推定した一次トレンド成分を除去している。すべりの推定では、すべり方向をプレートの沈み込み方向と平行な方向に拘束している。

第 16 図は、下段に示した 6 観測点の観測値と計算値を比較した時系列図である。2024 年夏頃から南東向きの変動が見られる。計算値は観測値をよく説明できていることが分かる。

第 17 図左の図は、2022 年 1 月 1 日～2026 年 3 月 26 日の期間で推定されたすべり分布を示している。志摩半島周辺にすべりが推定された。推定されたすべりの最大値は 6cm、モーメントマグニチュードは 6.3 と求まった。

第 17 図中央の図は、観測値と計算値の比較の水平変動ベクトル図である。計算値は観測値をよく説明できていることが分かる。

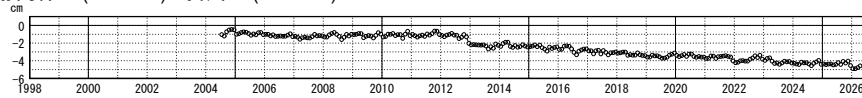
第 17 図右の図は、推定すべり分布図中の太い実線で囲まれた領域に位置するグリッドのすべりから求めたモーメントの時系列グラフである。2024 年夏頃からモーメントの増大が見られるが、2025 年秋頃から停滞し、既に停止している。

第 18 図は、各グリッドにおけるすべりの時間変化を示した図である。一部のグリッド (224, 241, 242) では 2024 年夏頃からすべりが見られるが、2025 年秋頃から停滞し、既に停止している。

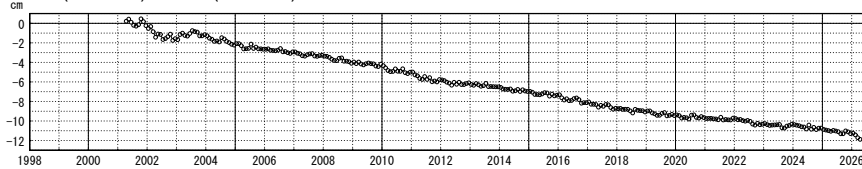
御前崎 電子基準点の上下変動

御前崎周辺の長期的な沈降傾向に変化は見られない。

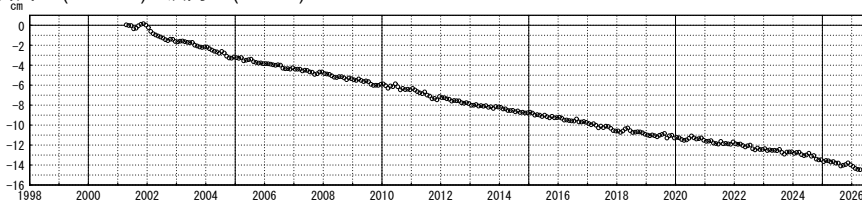
(1) 静岡森 2 (970819) - 掛川 A (161216)



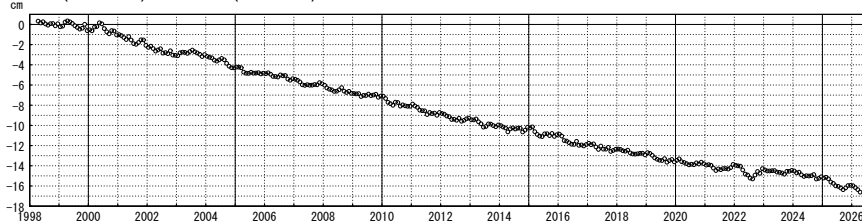
(2) 掛川 A (161216) - 小笠 (960622)



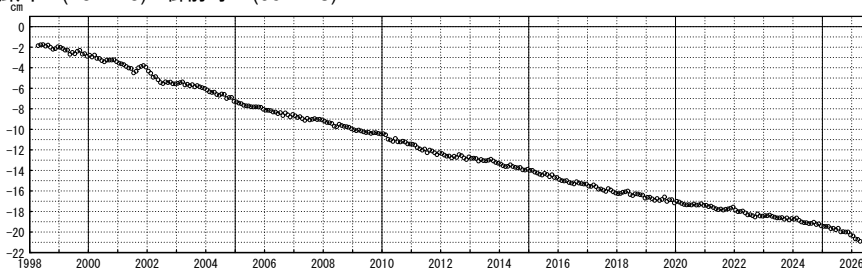
(3) 掛川 A (161216) - 浜岡 1 (93094)



(4) 掛川 A (161216) - 浜岡 2 (960625)

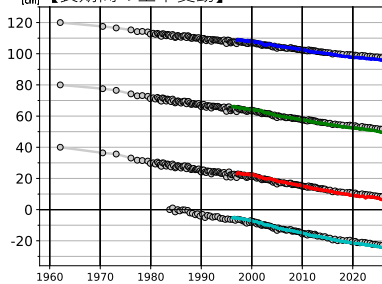


(5) 掛川 A (161216) - 御前崎 A (091178)

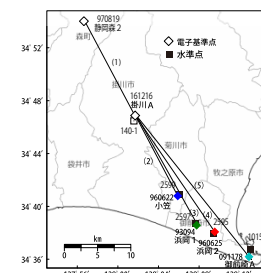


○ : GNSS 連続観測 (GEONET 月平均値)

【長期間の上下変動】



「固定局：掛川 A (161216)」



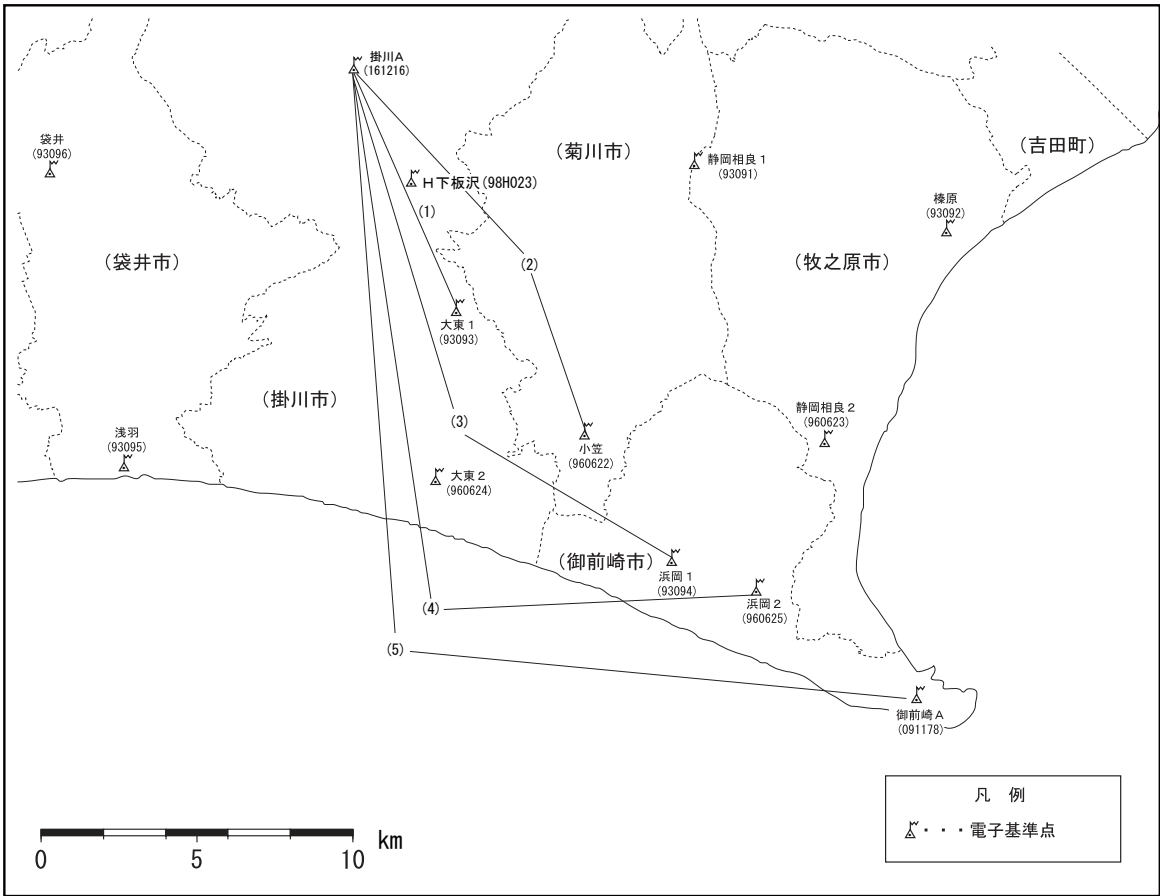
- GNSS 連続観測のプロット点は、GEONET による日々の座標値 (F5.1 : 最終解) から計算した値の月平均値。最新のプロット点は 4 月 1 日～11 日の平均。
- 各プロットの色は配色図の電子基準点の色と対応する。
- 灰色のプロットは電子基準点の最寄りの水準点「2599」「2597」「2595」「10150」の水準測量結果を示している (固定 : 140-1)。
- ※ 1 2009 年 8 月 11 日の駿河湾の地震に伴う電子基準点「御前崎」の局所的な変動について、地震前後の水準測量で得られた「御前崎」周辺の水準の比高の差を用いて補正を行った。
- ※ 2 電子基準点「御前崎 A」については、2010 年 3 月 23 日まで電子基準点「御前崎」のデータを使用。
- ※ 3 電子基準点「掛川 A」については、2017 年 1 月 29 日まで電子基準点「掛川」のデータを使用。

第 1 図 御前崎 電子基準点の上下変動

Fig. 1 Vertical displacements of GEONET stations in the Omaezaki region.

御前崎 GNSS 連続観測時系列 (1)

基線図



各観測局情報

点番号	点名	日付	保守内容	点番号	点名	日付	保守内容
161216	掛川A	2003-02-12	レドーム設置	93094	浜岡 1	2003-02-10	レドーム設置
		2003-05-12	アンテナ更新・受信機更新			2003-05-16	アンテナ更新・受信機更新
		2008-07-25	受信機交換			2010-02-23	レドーム開閉・受信機更新
		2010-02-24	レドーム開閉・受信機更新			2012-11-22	アンテナ更新
		2010-10-08	周辺伐採			2012-12-21	周辺伐採
		2010-11-12	周辺伐採			2017-11-08	受信機更新
		2012-11-20	アンテナ更新			2024-10-06	レドーム開閉
		2017-01-25	データ切替(掛川→掛川A)※			2024-12-11	受信機更新
		2021-11-13	受信機更新			2025-02-04	レドーム開閉
		2023-02-26	アンテナ更新	960625	浜岡 2	2001-03-15	受信機更新
		2024-10-05	レドーム開閉			2003-06-19	アンテナ更新
93093	大東 1	2003-02-10	レドーム設置			2008-01-29	レドーム開閉・受信機更新
		2003-03-04	アンテナ更新・受信機更新			2012-11-28	アンテナ更新・受信機更新
		2006-06-19	周辺伐採			2014-08-11	周辺伐採
		2010-02-24	レドーム開閉・受信機更新			2016-05-20	アンテナ交換
		2010-10-12	周辺伐採			2019-11-19	受信機更新
		2012-11-20	アンテナ更新			2022-02-07	周辺伐採
		2017-11-09	受信機更新			2023-03-03	周辺伐採
		2024-10-05	レドーム開閉			2024-10-06	レドーム開閉
		2024-12-11	受信機更新	091178	御前崎A	2003-02-11	レドーム設置
960622	小笠	2003-05-27	アンテナ更新			2003-02-28	アンテナ更新
		2010-02-23	レドーム開閉・受信機更新			2010-03-17	データ切替(御前崎→御前崎A)※
		2012-11-28	アンテナ更新			2012-11-28	アンテナ更新・受信機更新
		2017-11-08	受信機更新			2019-10-09	受信機交換
		2024-10-06	レドーム開閉			2020-12-16	受信機更新
		2026-02-05	受信機交換			2024-10-07	レドーム開閉

※移転に伴う使用データの切替

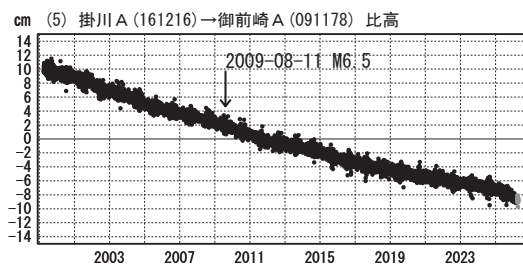
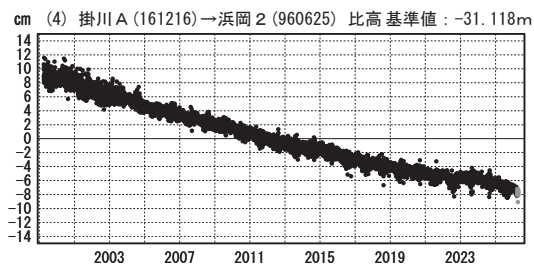
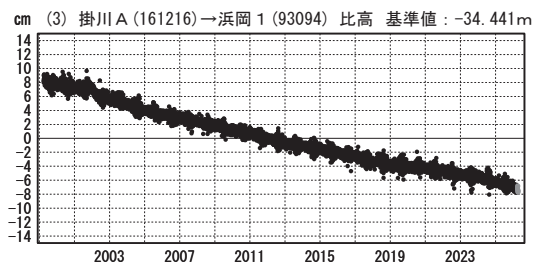
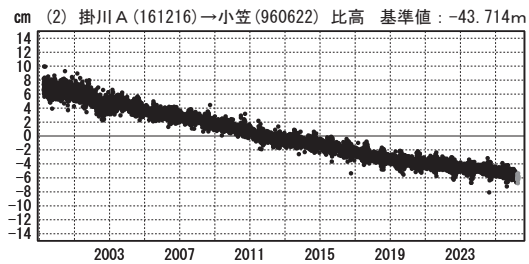
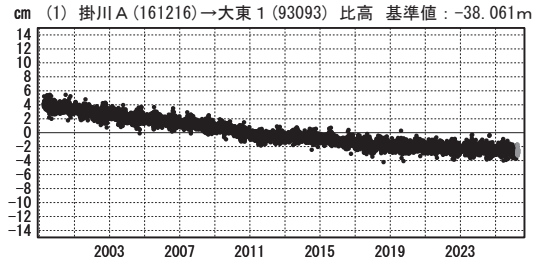
第 2 図 御前崎における GNSS 連続観測結果 (観測点配置図・保守状況)

Fig. 2 GNSS timeseries of continuous GNSS stations in the Omaezaki region (Site location map and maintenance history).

御前崎 GNSS 連続観測時系列 (2)

比高変化グラフ (長期)

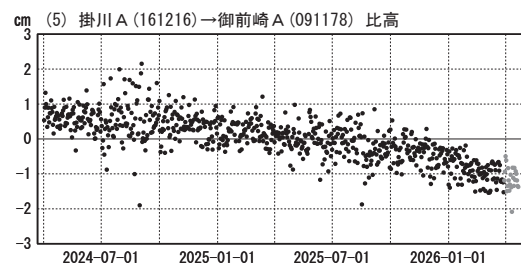
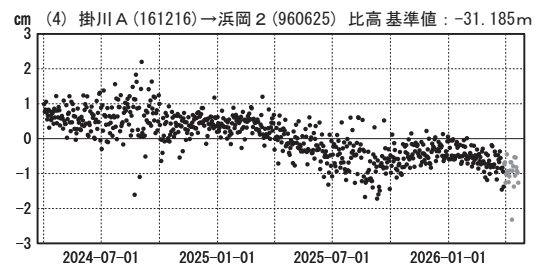
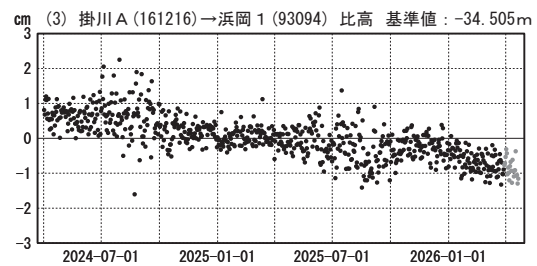
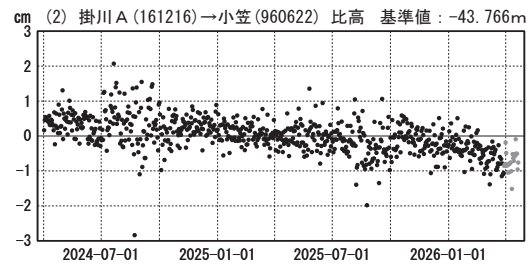
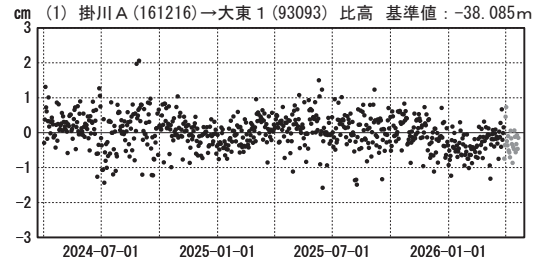
期間: 1999-04-01~2026-04-20 JST



●— [F5. 1: 最終解] ●— [R5. 1: 速報解]

比高変化グラフ (短期)

期間: 2024-04-01~2026-04-20 JST



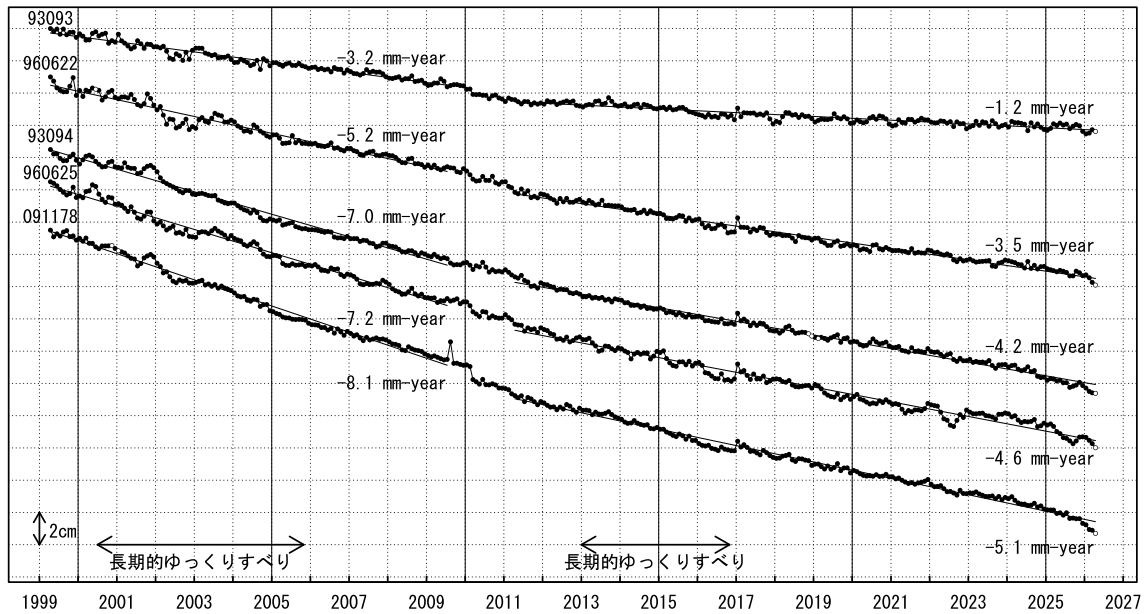
第 3 図 御前崎地域の GNSS 連続観測結果 (比高)

Fig. 3 GNSS timeseries of continuous GNSS stations in the Omaezaki region (relative height).

電子基準点による比高変化 月平均値・10 日間平均値

月平均値

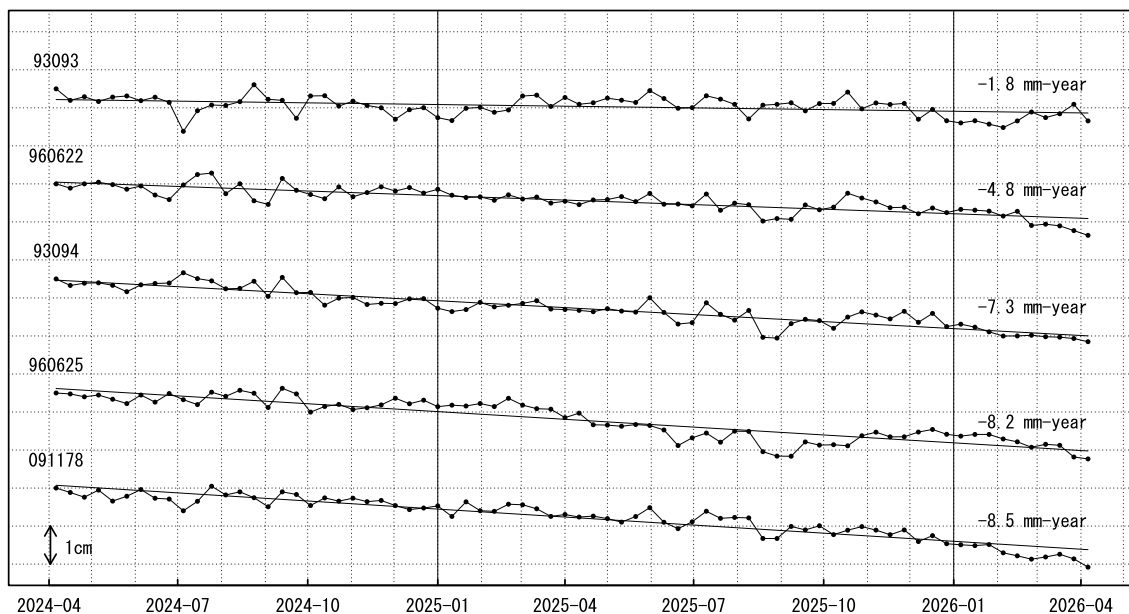
期間：1999-04-01 / 2026-04-11 [F 5. 1：最終解]



固定局：161216

10 日間平均値

期間：2024-04-02 / 2026-04-11 [F 5. 1：最終解]



固定局：161216

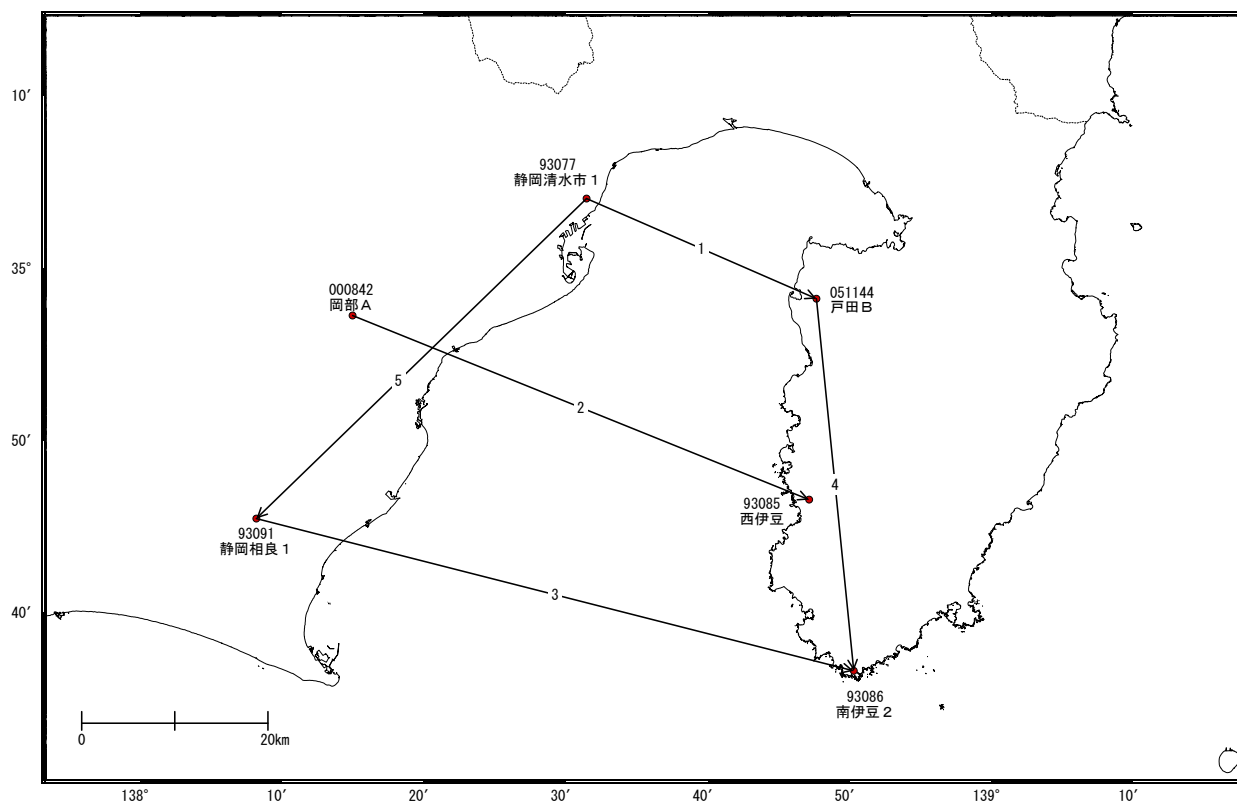
- ・プロット位置は平均を求めた期間の中央。
- ・最新のプロット点は月平均値は 04 月 01 日～04 月 11 日、10 日間平均値は 04 月 02 日～04 月 11 日の平均。
- ・平均に用いたデータ数が少ない場合（月平均：25 未満、10 日間平均：8 未満）は白抜き。
- ・月平均値の回帰モデルは、2009 年 8 月 11 日に発生した駿河湾の地震前、および、2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震後の各期間について作成。

第 4 図 電子基準点 比高観測 GNSS 観測結果（1 か月間及び 10 日間移動平均・時系列）

Fig. 4 GNSS timeseries of continuous GNSS stations in the Omaezaki region (moving average of 1 month and 10 days of relative height).

駿河湾周辺 GNSS 連続観測時系列 (1)

基線図



各観測局情報

点番号	点 名	日 付	保 守 内 容
93077	静岡清水市 1	2015-10-10	アンテナ交換
		2020-12-15	受信機更新
		2022-04-25	受信機交換
		2022-04-28	受信機交換
		2023-01-25	アンテナ更新
		2024-10-09	レドーム開閉
051144	戸田 B	2016-11-05	周辺伐採
		2016-11-21	受信機更新
		2024-10-10	レドーム開閉
		2024-12-21	受信機更新
000842	岡部 A	2016-11-22	受信機更新
		2024-12-09	受信機更新
93085	西伊豆	2021-11-14	受信機更新
		2024-10-11	レドーム開閉
93091	静岡相良 1	2019-11-19	受信機更新
		2023-03-07	周辺伐採
		2024-10-07	レドーム開閉
93086	南伊豆 2	2019-11-22	受信機更新
		2024-10-11	レドーム開閉

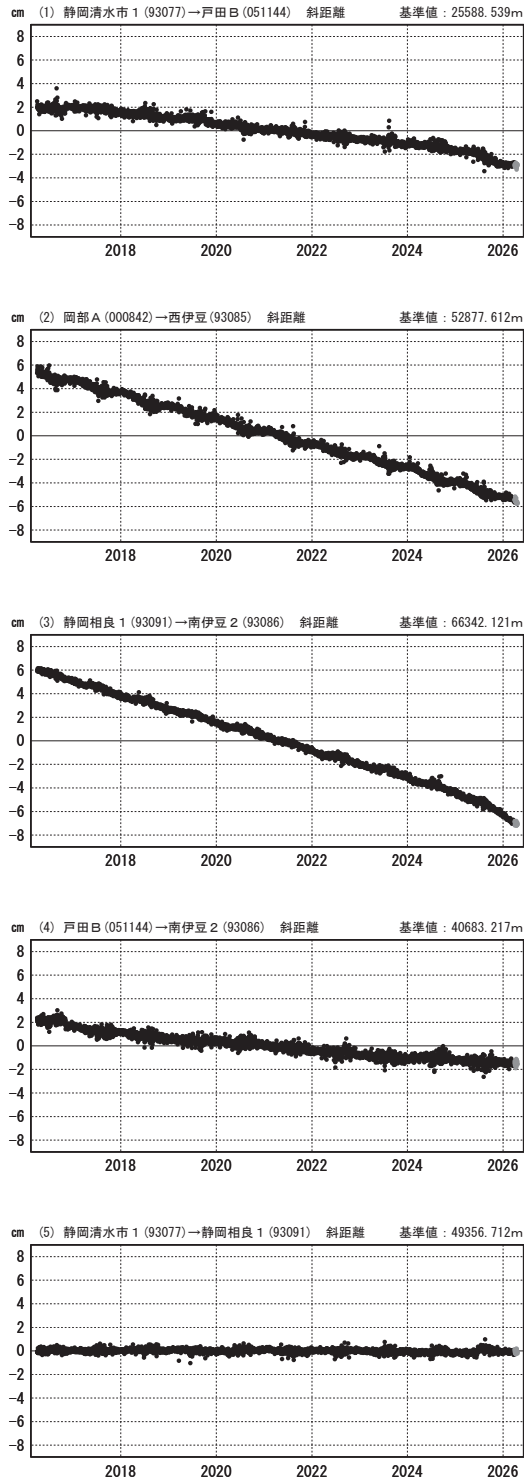
第 5 図 駿河湾周辺 GNSS 連続観測点観測結果 (基線図及び保守状況)

Fig. 5 GNSS timeseries of continuous GNSS stations around the Suruga Bay (baseline map and maintenance history).

駿河湾周辺 GNSS 連続観測時系列 (2)

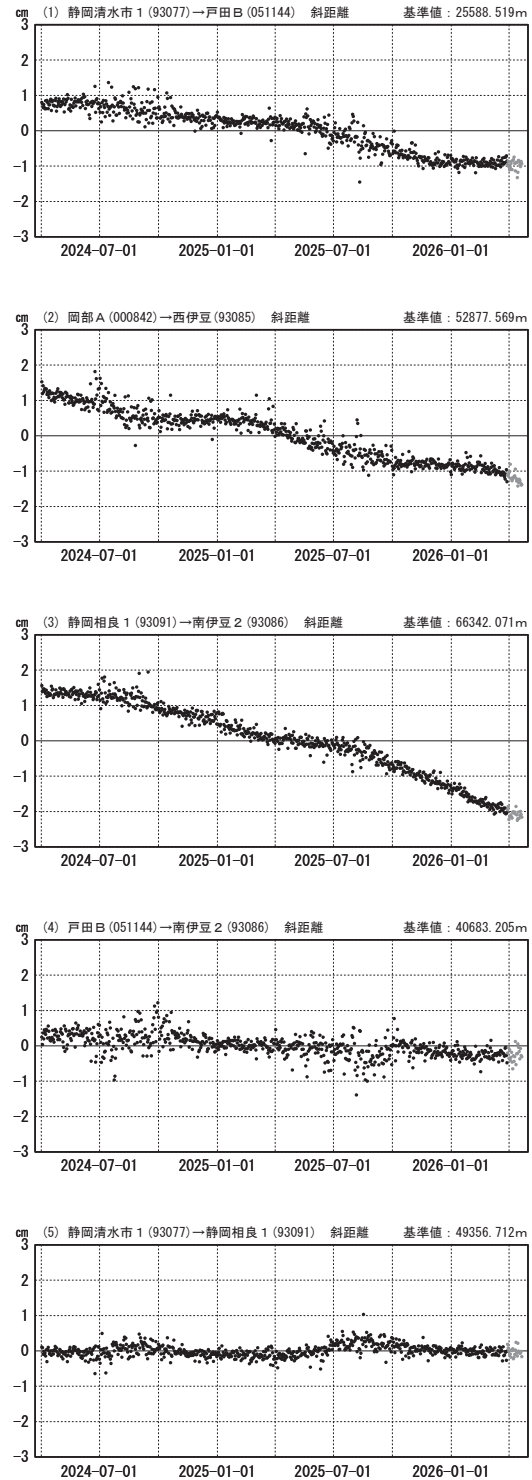
基線変化グラフ (長期)

期間: 2016-04-01~2026-04-20 JST



基線変化グラフ (短期)

期間: 2024-04-01~2026-04-20 JST

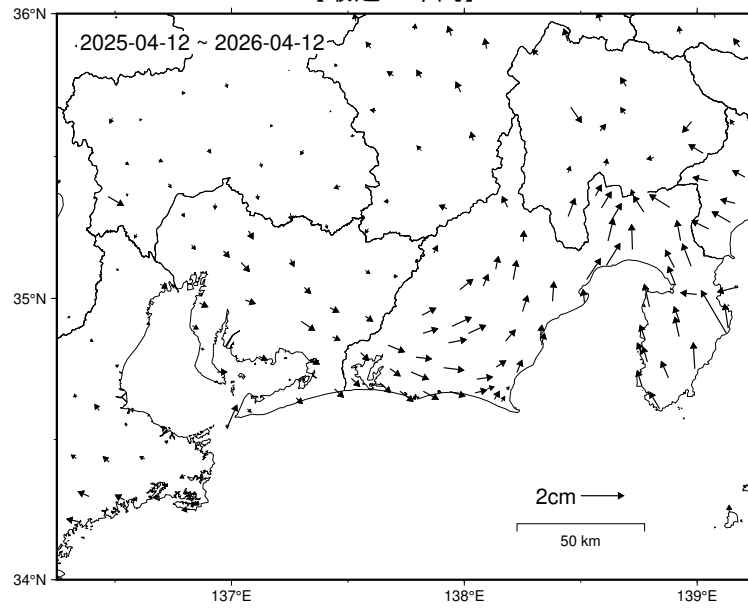


●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

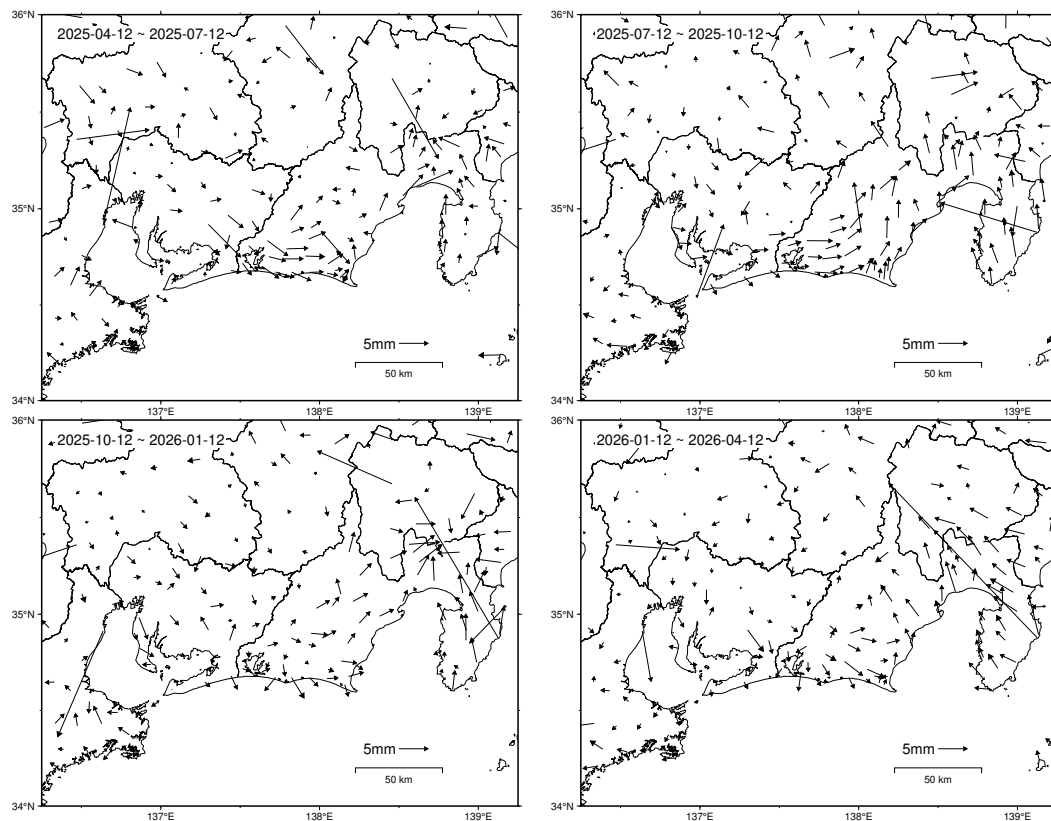
第 6 図 駿河湾周辺 GNSS 連続観測点観測結果 (斜距離)

Fig. 6 GNSS timeseries of continuous GNSS stations around the Suruga Bay (baseline length).

東海地方の非定常水平地殻変動【固定局：白鳥】
(2025 年 04 月～2026 年 04 月)
【最近 1 年間】



【最近 1 年間 3 か月ごと】

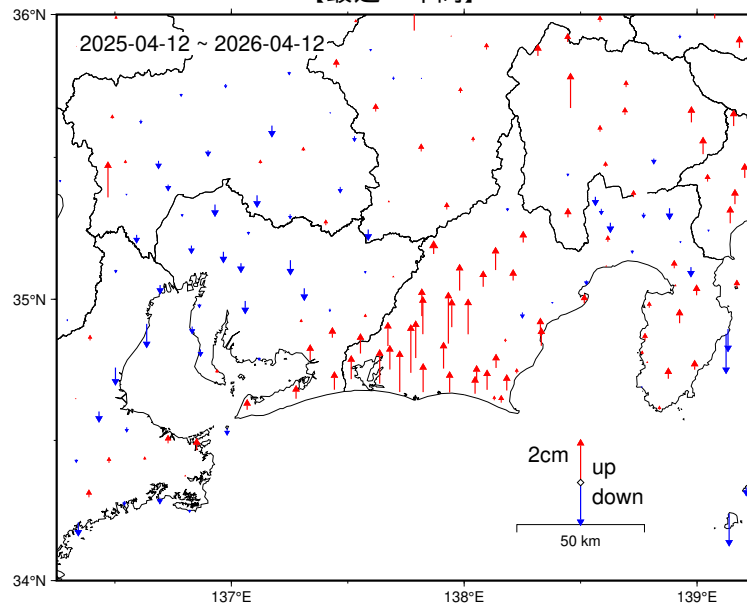


・ GEONET による日々の座標値 (F5.1 解、R5.1 解) を使用している。
・ 非定常地殻変動時系列のうち、各日付 ± 6 日の計 13 日間の変動量の中央値をとり、その差から 1 年間と 3 か月間の変動量を表示している。
※非定常地殻変動時系列：
2008 年 1 月から 2011 年 1 月のデータから平均変動速度、年周／半年周成分を推定して、元の時系列データから除去した時系列。

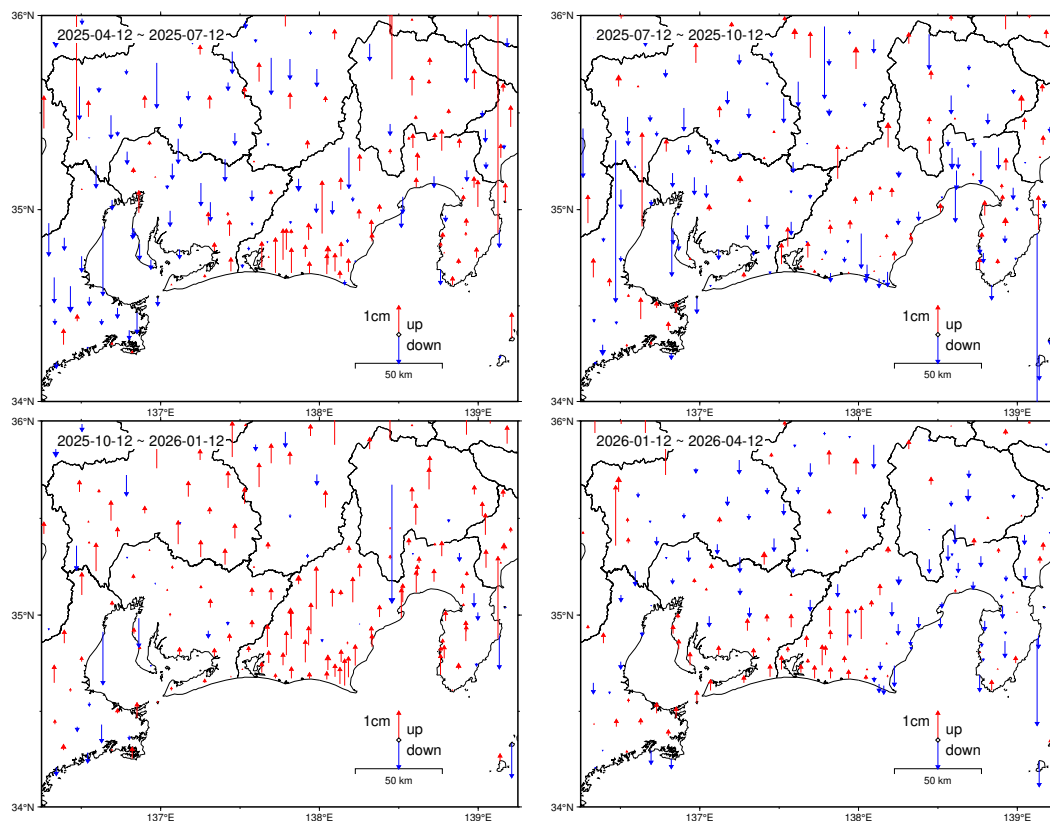
第 7 図 GNSS 観測による東海地方の最近 1 年間と 3 か月ごとの非定常地殻変動 (水平変動)

Fig. 7 Transient horizontal deformation of recent 1 year and every 3 months in the Tokai region.

東海地方の非定常上下地殻変動【固定局：白鳥】
(2025 年 04 月～2026 年 04 月)
【最近 1 年間】



【最近 1 年間 3 か月ごと】



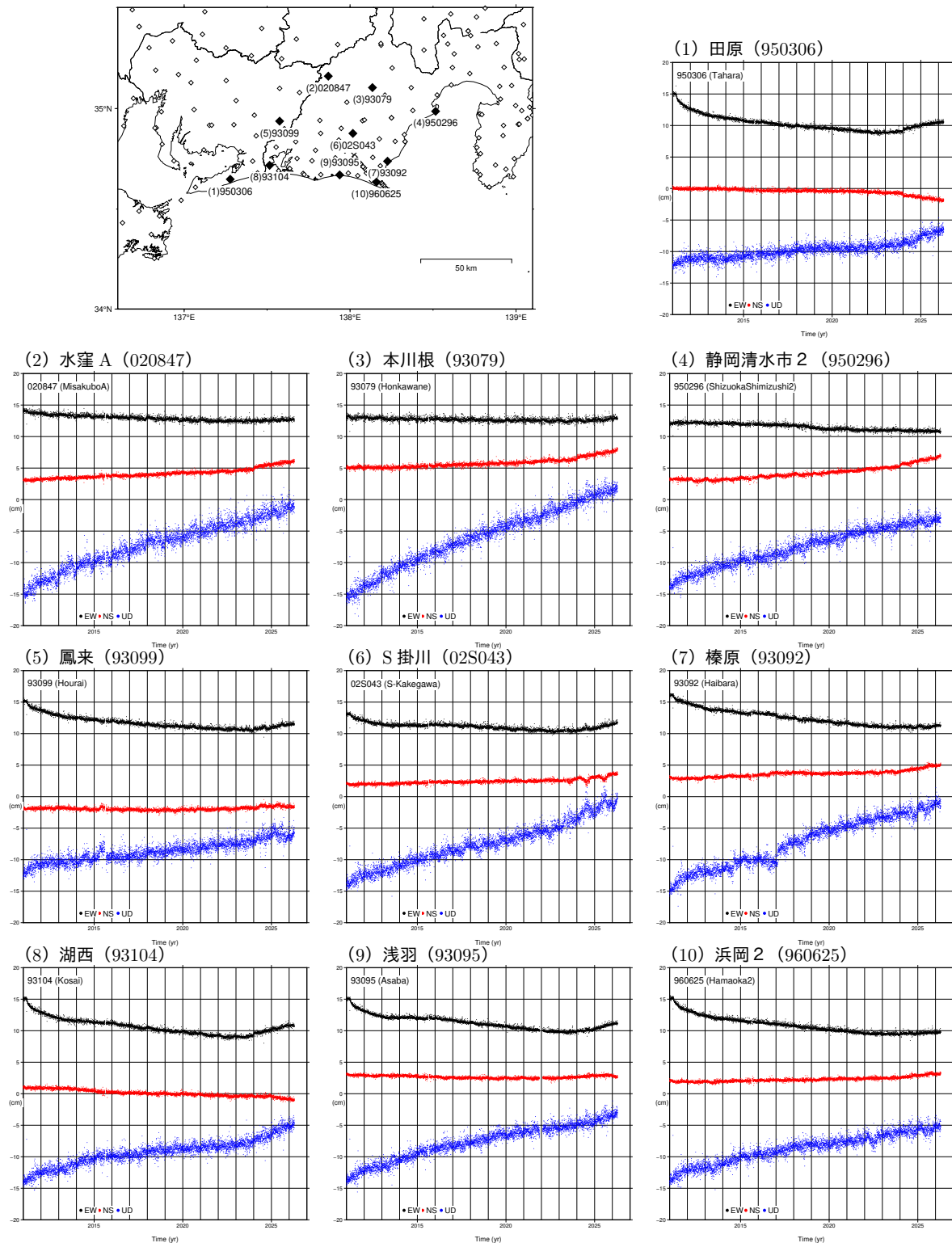
・ GEONET による日々の座標値 (F5.1 解、R5.1 解) を使用している。
・ 非定常地殻変動時系列のうち、各日付 ± 6 日の計 13 日間の変動量の中央値をとり、その差から 1 年間と 3 か月間の変動量を表示している。
※非定常地殻変動時系列：
2008 年 1 月から 2011 年 1 月のデータから平均変動速度、年周／半年周成分を推定して、元の時系列データから除去した時系列。

第 8 図 GNSS 観測による東海地方の最近 1 年間と 3 か月ごとの非定常地殻変動 (上下変動)

Fig. 8 Transient vertical deformation of recent 1 year and every 3 months in the Tokai region.

東海地方の非定常地殻変動時系列【固定局：白鳥】

速報解含む 2011-01-01 ~ 2026-04-18

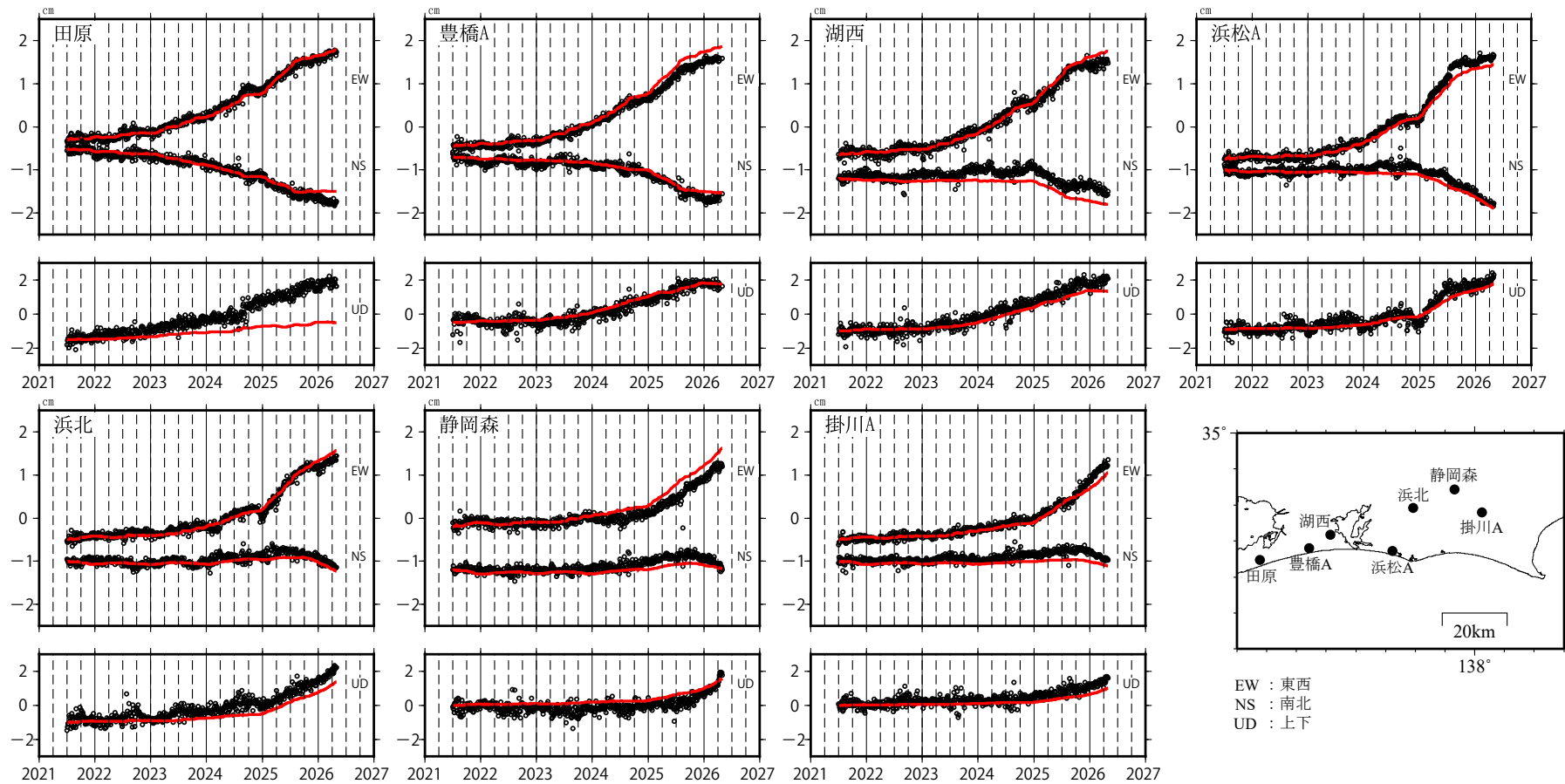


- ・ GEONET による日々の座標値 (F5.1 解、R5.1 解) を使用している。
- ・ 2008 年 1 月 1 日 ~ 2011 年 1 月 1 日のデータから平均変動速度、年周/半年周成分を推定して、元の時系列データから除去している。
- ・ 平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震による地殻変動の影響は取り除いている。

第 9 図 東海地方の非定常地殻変動時系列

Fig. 9 Time series of transient deformation at selected stations in the Tokai region.

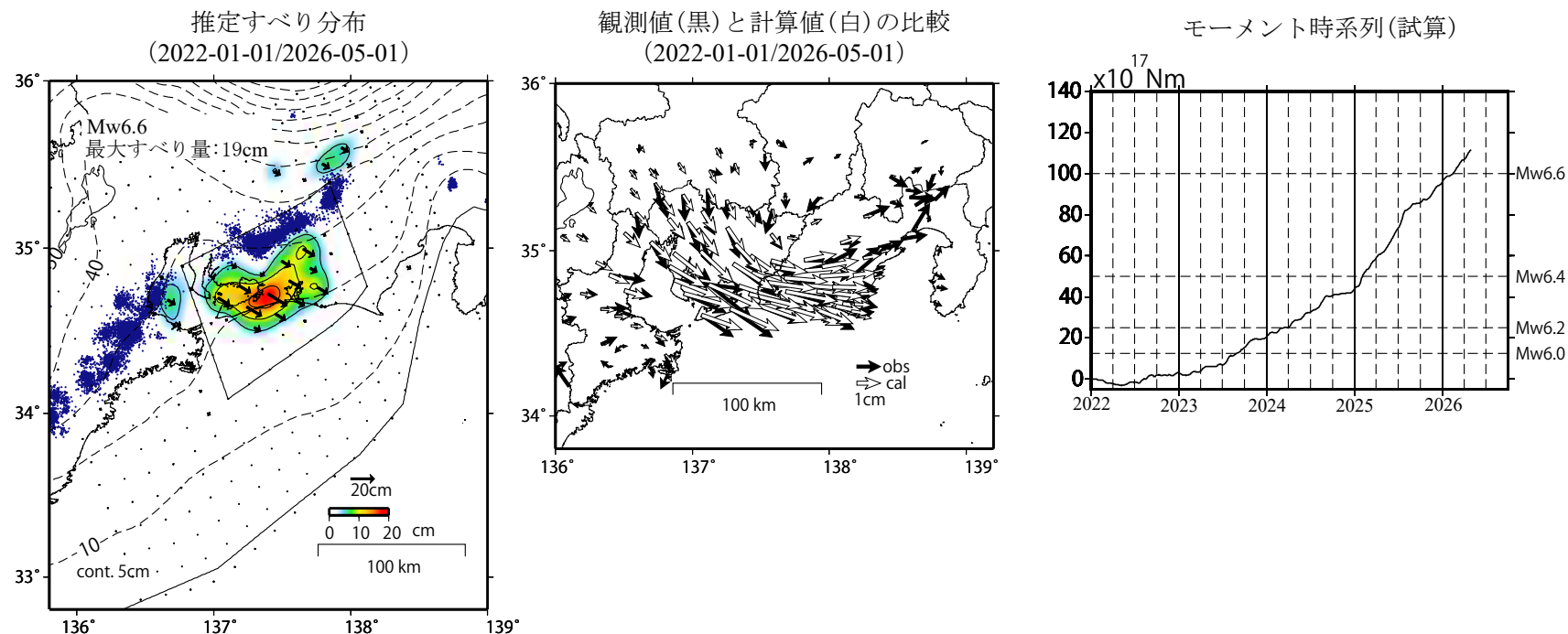
東海地域の観測点の座標時系列(黒丸)と計算値(赤線)
時間依存のインバージョン



第 10 図 東海地域の非正常地殻変動時系列：観測値（黒丸）と時間依存インバージョンによる計算値（赤線）

Fig. 10 Observed (black dots) and calculated (red line) time series of transient crustal deformations at the GNSS stations in the Tokai region.

GNSSデータから推定された東海地域の長期的ゆっくりすべり（暫定）



Mw及び最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載している。
すべり量(カラー)及びすべりベクトルは水平面に投影したものを示している。
推定したすべり量が標準偏差(σ)の3倍以上のグリッドを黒色で示している。

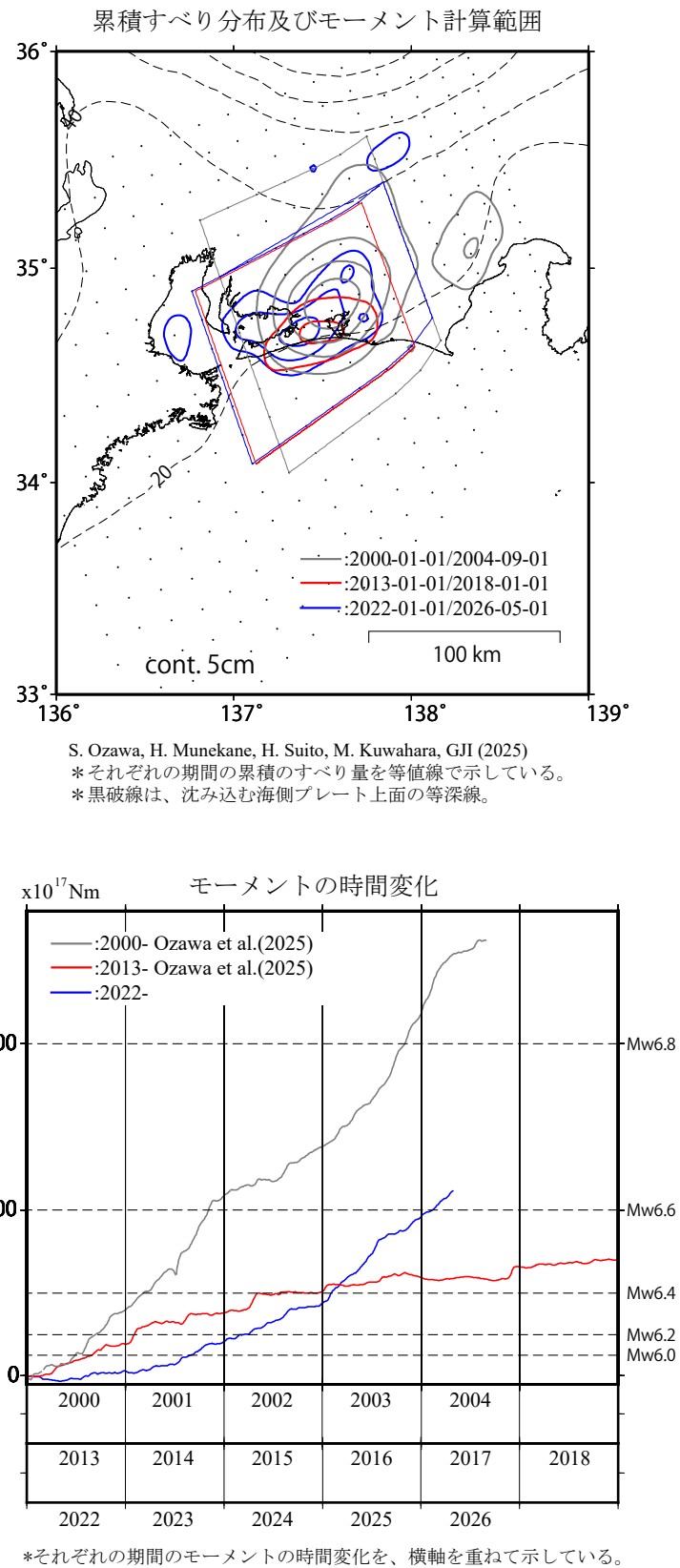
使用データ：GEONETによる日々の座標値(F5.1解、R5.1解)
・F5.1解(2021-07-01/2026-04-11) + R5.1解(2026-04-12/2026-05-01)
・トレンド期間：2020-01-01/2022-01-01(年周・半年周成分は補正していない)
モーメント計算範囲：左図の黒枠内側
観測値：3日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値
黒破線：フィリピン海プレート上面の等深線(Hirose et al., 2008)
すべり方向：プレートの沈み込み方向に拘束
青丸：低周波地震(気象庁一元化震源)(期間：2022-01-01/2026-05-01)
固定局：三隅

*モーメント：断層運動のエネルギーの目安となる量。
*電子基準点の保守等による変動は補正している。
*気象庁カタログ(2017年以降)の短期的ゆっくりすべりを補正している。
*共通誤差成分を推定している。
*平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の粘弾性変形は補正している(Suito, 2017)。
*令和6年能登半島地震に伴う地殻変動は補正している。
*令和6年能登半島地震の粘弾性変形は補正している(Suito, 2025)。

第 11 図 東海地域において推定される長期的ゆっくりすべり（暫定）

Fig. 11 Estimated slip distribution on the plate interface beneath the Tokai region (preliminary).

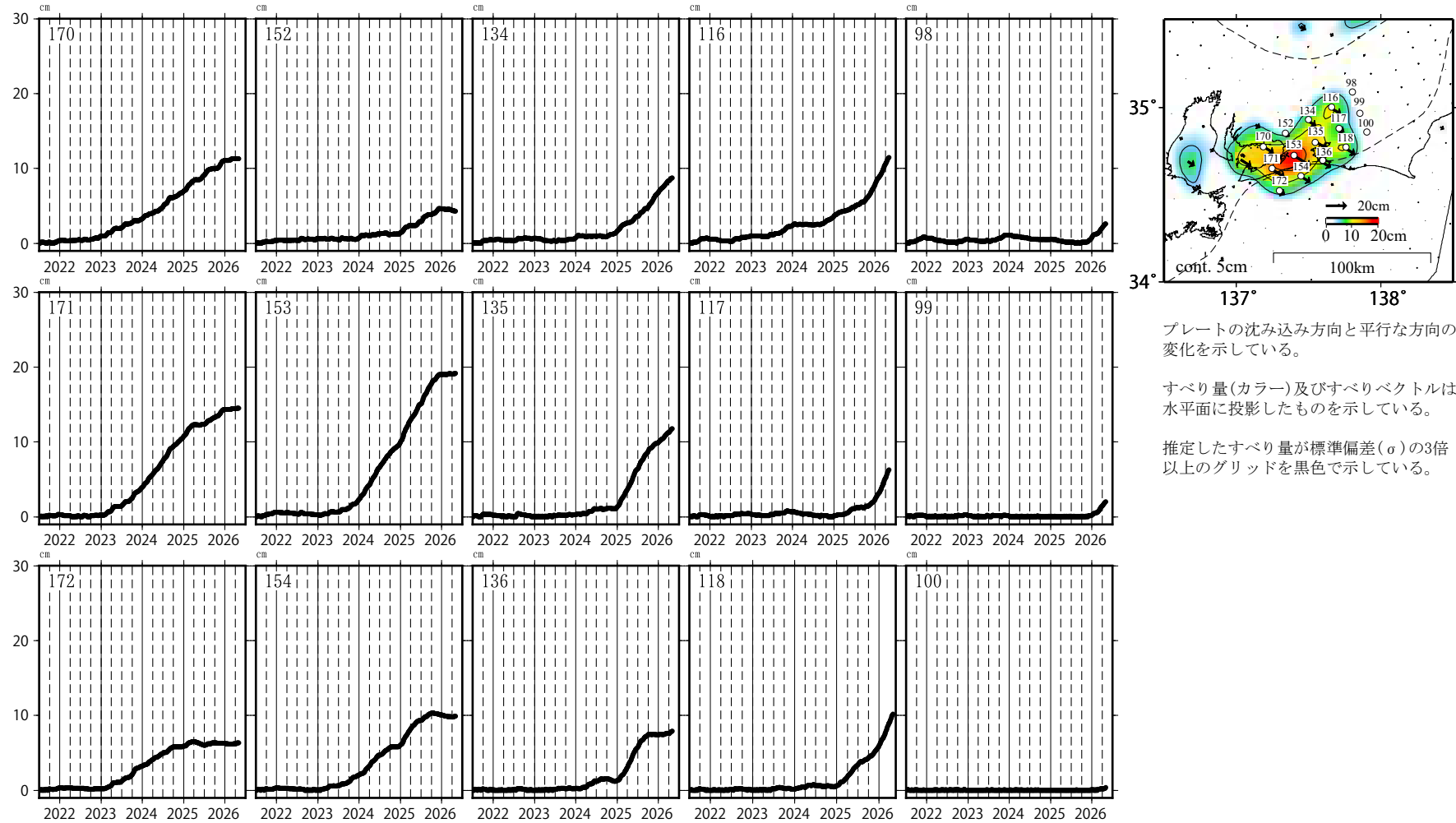
非定常地殻変動から推定される累積すべり分布及びモーメントの時間変化（暫定）



第 12 図 非定常地殻変動から推定される累積すべり分布及びモーメントの時間変化（暫定）

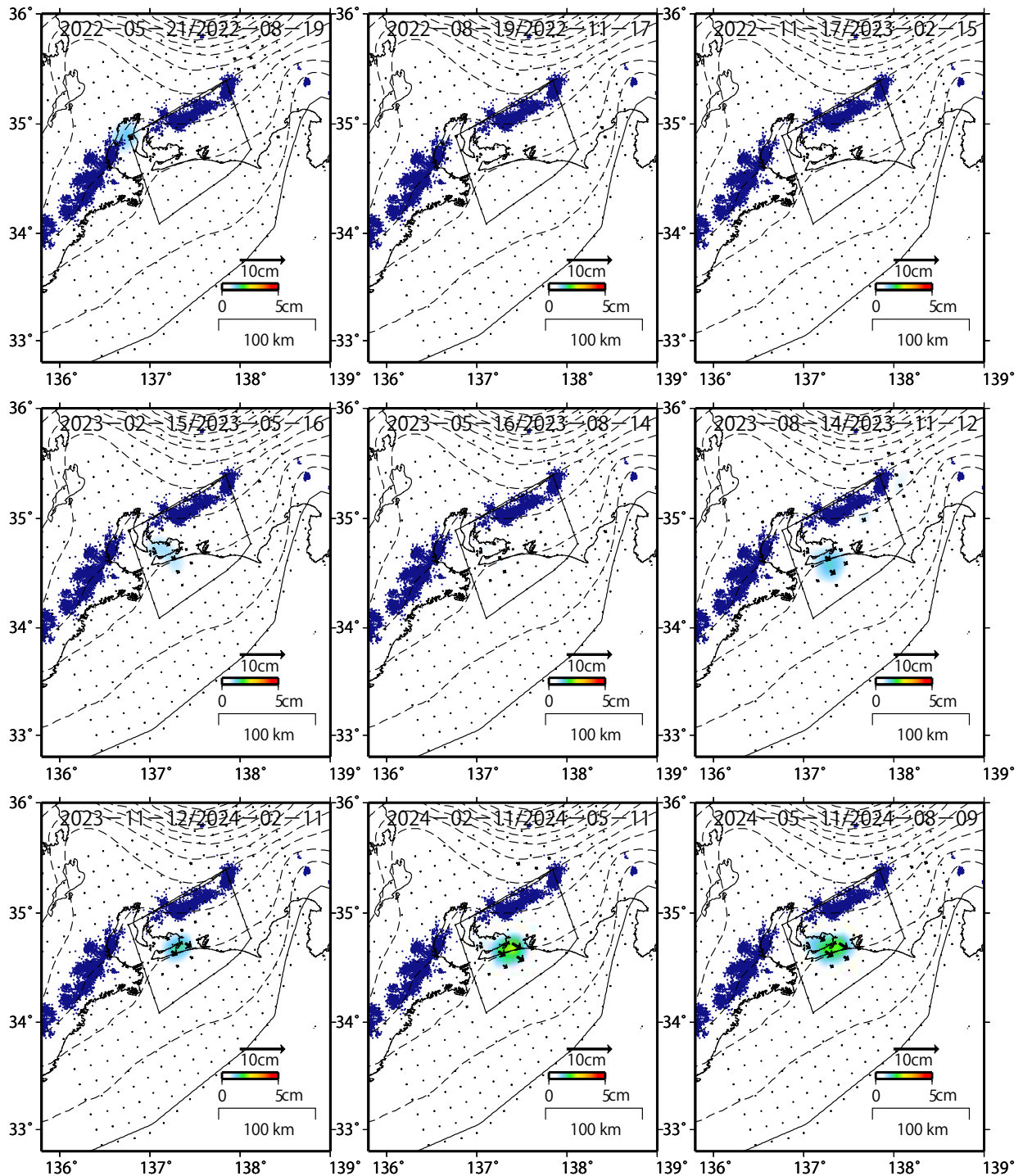
Fig. 12 Slip distribution and seismic moment evolution of recent and past SSEs in the Tokai region (preliminary)

東海地域の長期的ゆっくりすべり
各グリッドにおけるすべりの時間変化 時間依存のインバージョン



第 13 図 時間依存インバージョンで推定されたプレート間すべりの時間変化
Fig. 13 Time evolution of the estimated slip by the time dependent inversion method.

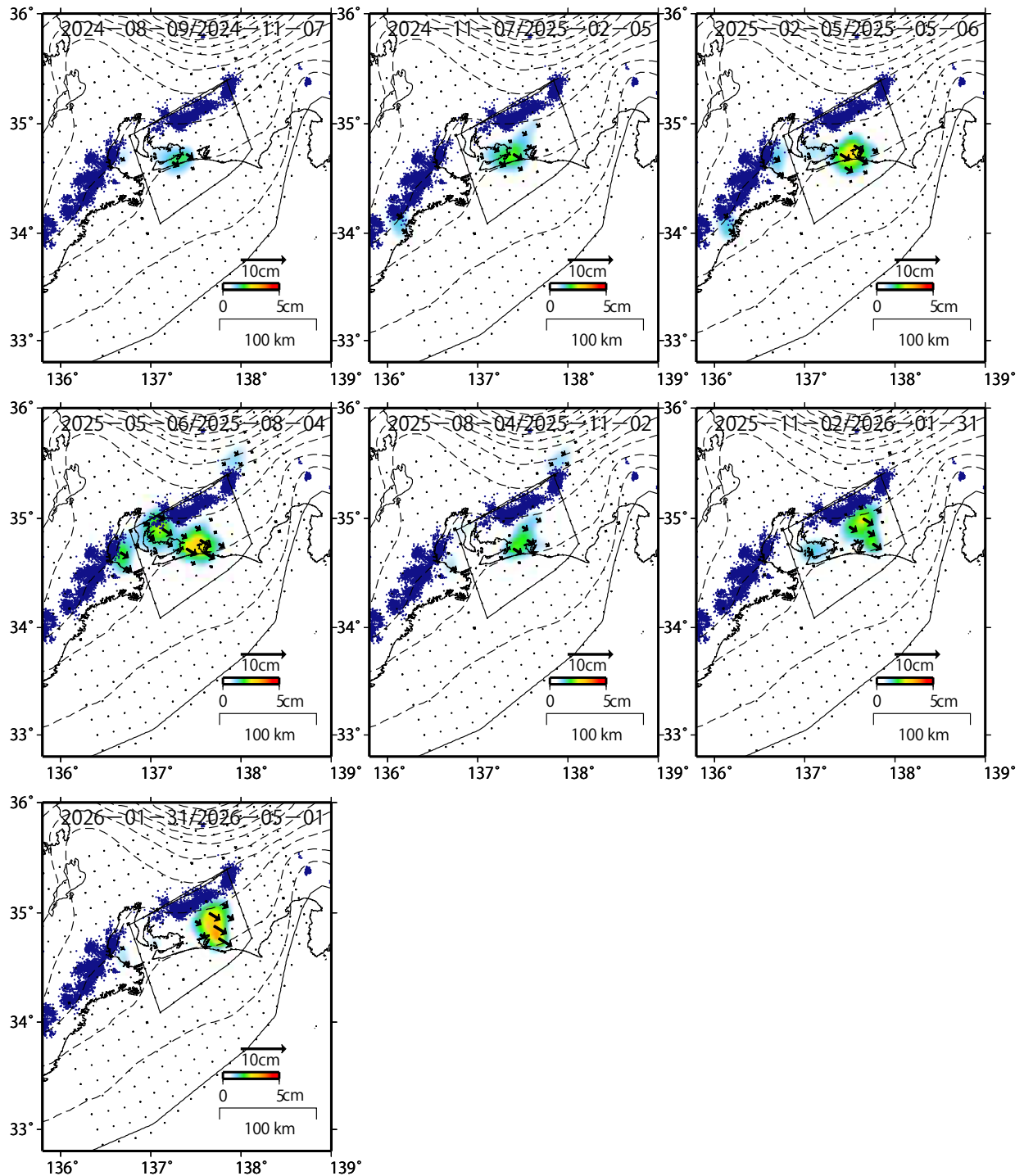
GNSSデータから推定された東海地域の長期的ゆっくりすべり（暫定）
推定すべり分布の時間変化（3 か月ごと）



第 14 図 東海地域において推定される長期的ゆっくりすべり（3 か月ごと）（暫定）

Fig. 14 Estimated slip distribution on the plate interface beneath the Tokai region (every 3 months) (preliminary).

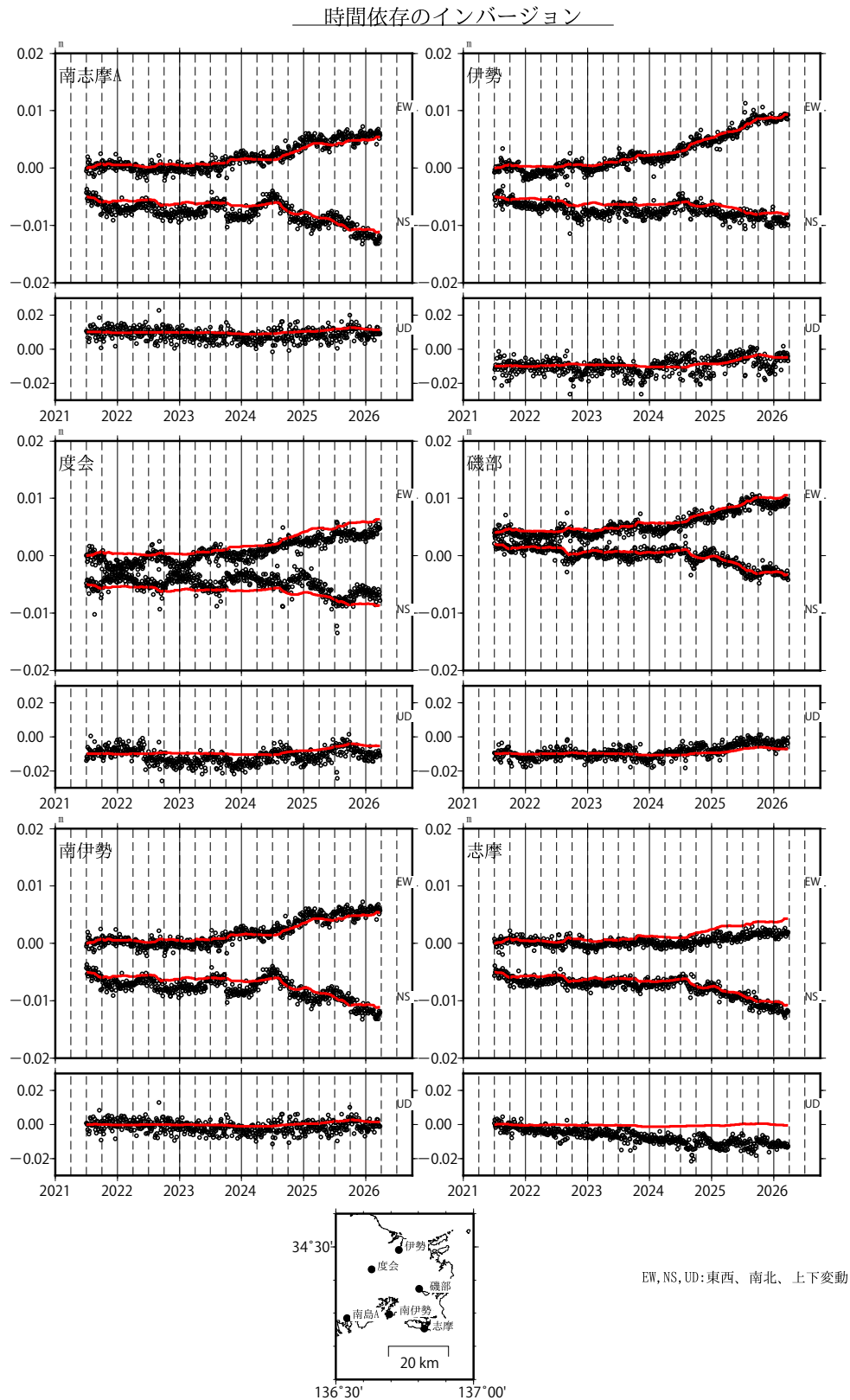
GNSSデータから推定された東海地域の長期的ゆっくりすべり（暫定）
推定すべり分布の時間変化（3 か月ごと）



第 15 図 東海地域において推定される長期的ゆっくりすべり（3 か月ごと）（暫定）（つづき）

Fig. 15 Estimated slip distribution on the plate interface beneath the Tokai region (every 3 months) (preliminary) (continued).

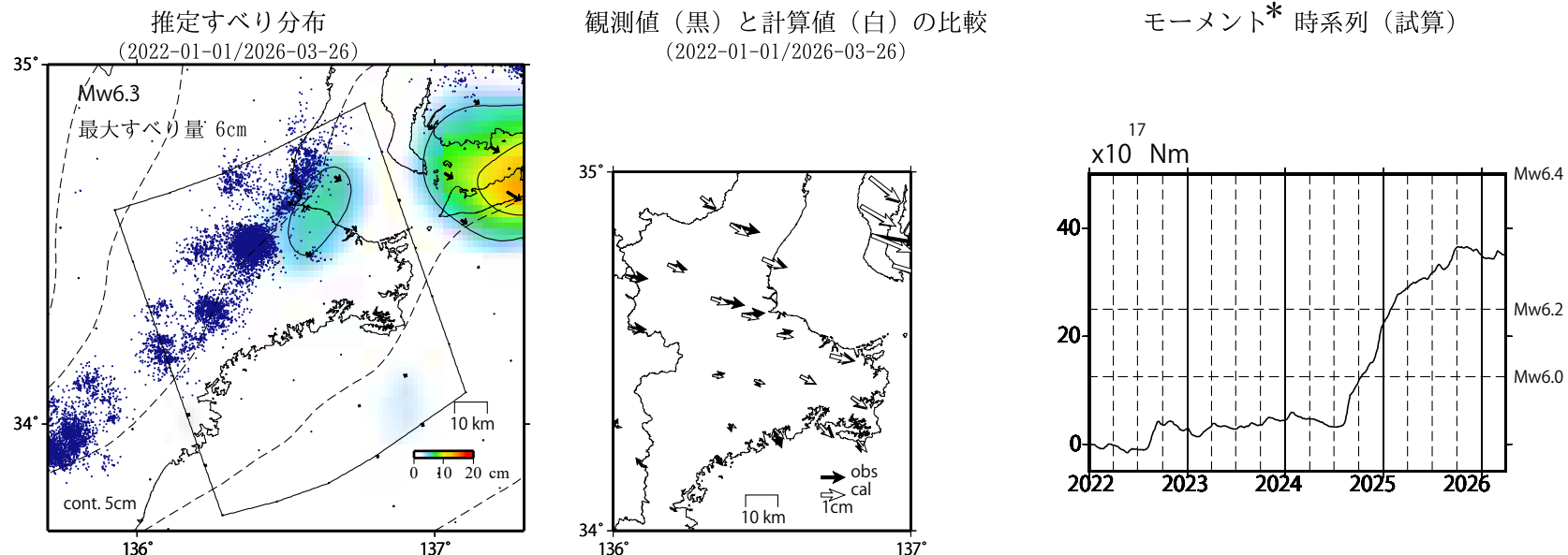
志摩半島地域の観測点の座標時系列(黒丸)と計算値(赤線)



第 16 図 志摩半島地域の非定常地殻変動時系列: 観測値(黒丸)と時間依存インバージョンによる計算値

Fig. 16 Observed (black dots) and calculated (red line) time series of transient crustal deformations at the GNSS stations in the Shima Peninsula region.

GNSSデータから推定された志摩半島地域の長期的ゆっくりすべり（暫定）



Mw及び最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載している。
すべり量(カラー)及びすべりベクトルは水平面に投影したものを示している。
推定したすべり量が標準偏差(σ)の3倍以上のグリッドを黒色で示している。

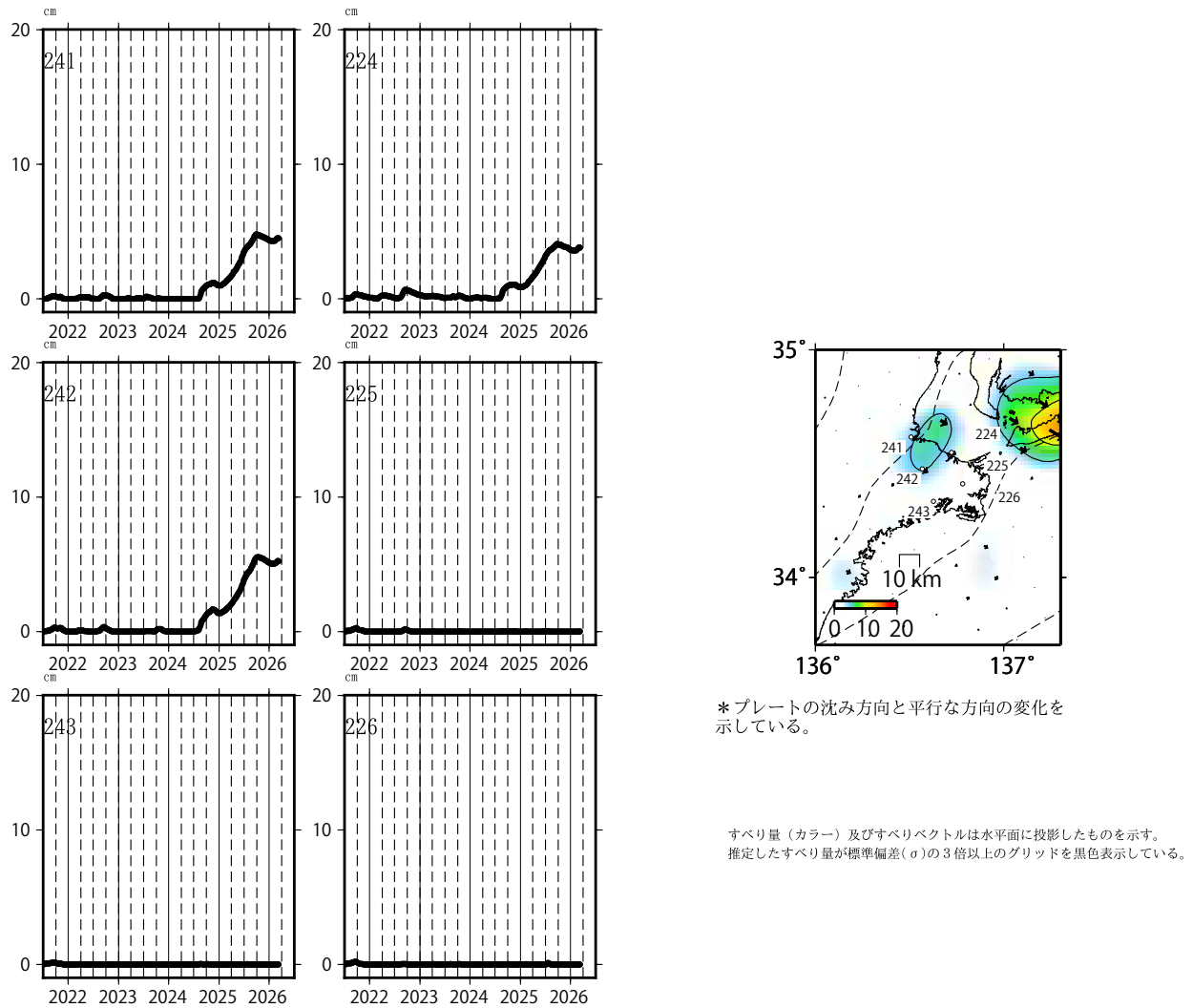
使用データ：GEONETによる日々の座標値(F5.1解、R5.1解)
・F5.1解(2021-07-01/2026-02-28) + R5.1解(2026-03-01/2026-03-26)
・トレンド期間：2020-07-01/2022-07-01(年周・半年周成分は補正していない)
モーメント計算範囲：左図の黒枠内側
観測値：3日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値
黒破線：フィリピン海プレート上面の等深線(Hirose et al., 2008)
すべり方向：プレートの沈み込み方向に拘束
青丸：低周波地震(気象庁一元化震源)(期間：2022-01-01/2026-03-26)
固定局：三隅

*モーメント：断層運動のエネルギーの目安となる量。
*電子基準点の保守等による変動は補正している。
*気象庁カタログ(2017年以降)の短期的ゆっくりすべりを補正している。
*共通誤差成分を推定している。
*平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の粘弾性変形は補正している(Suito, 2017)。
*令和6年能登半島地震に伴う地殻変動は補正している。
*令和6年能登半島地震の粘弾性変形は補正している(Suito, 2025)。

第 17 図 志摩半島地域において推定される長期的ゆっくりすべり（暫定）

Fig. 17 Estimated slip distribution on the plate interface beneath the Shima Peninsula region(preliminary).

志摩半島地域の長期的ゆっくりすべり
各グリッドにおけるすべりの時間変化
時間依存のインバージョン



第 18 図 時間依存インバージョンで推定されたプレート間すべりの時間変化

Fig. 18 Time evolution of the estimated slip by the time dependent inversion method.